



みみだより No.57

鳥取聾学校ひまわり分校

聴能担当

R7.5.8

文責：徳岡

令和7年度が始まり、1か月が経ちました。5月の爽やかな空気を身体いっぱいにおい込んで、元気いっぱい過ごしましょう！

今年度も「みみだより」で聴能等に関する情報をお届けしていきます。今回は、きこえの程度について取り上げます。



聴力が40デシベル以上になると、ふだんの生活の中できこえにくいと思うことが増えてくるといわれています。皆さんも補聴器を外したら、40デシベル以上になるので、「音があまり入らないな」、「きこえないな」と思うことが多いでしょう。



<https://st-navi.jp/agent/content/shogai/blog-arrier-shogai/merit.html>より

世界保健機関（WHO）では、平均聴力レベルが41デシベル以上で補聴器の使用を勧めています。つまり、聴力レベルが40デシベル以上だと、生活の中で何らかの不便さが出てしまうということになります。そのため、きこえを補う補聴器や人工内耳を使うことが望ましいということになってきます。補聴器や人工内耳の装用により、聴覚機能の維持や改善、日常生活でのコミュニケーションの改善に役立つことができると考えられています。

日本では、平均聴力レベルが70デシベル以上で障害者手帳が交付されます。

しょうがいしゃてちょう 障害者手帳があると、さまざま 様々なサービスを活用することができ、きこえない・きこえにくい人の生活を助えます。例えば、補聴器に係る費用の補助、電話リレーサービスの利用などが受けられることになります。そのことを考えると、日本の障害程度は世界保健機関の基準と比べて、大変厳しいものとなっています。補聴器等を使用しないと、40デシベル～70デシベルでもコミュニケーションをとることが難しくなり、生活上で不便なことが多いのにもかかわらず、様々なサービスを受けることができないということになってしまいます。この基準はなかなか見直しが進められません。

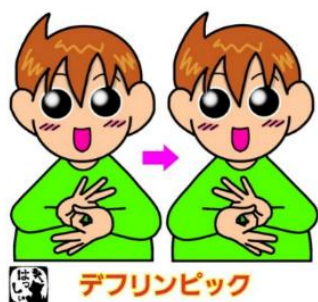
じつ 実は、デフリンピックの参加条件は補聴器等をつけないで、55デシベル以上の聴力レベルとなっているきこえない・きこえにくい人です。障害者手帳がなくても、聴力レベルによっては、デフリンピックをめざすことも可能です。



<https://www.jfd.or.jp/sc/deaflympics/about/>より

こんねんど 今年度から「みみだより」にルビを入れることにしました。子どもたちが、きこえやことばのことなど、自分たちに必要なことを読み取りやすいようにするためです。ぜひ、子どもたちと一緒に読んでいただけたらと思います。

ワンポイント手話



<https://hs84.blog.jp/archives/5285895.html> より

